

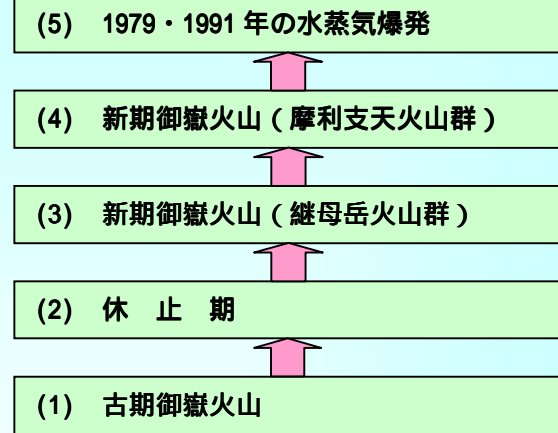
## ■御嶽山の活動史

### 御嶽山の火山活動史について

- (1) 古期御嶽火山は、74～42万年前に形成されました。
- (2) 42～10万年の間は、長い活動休止期間でした。
- (3) 10～8万年前の激しい噴火で、カルデラが形成されました。後にカルデラを埋積して火山体が形成されました。
- (4) 8～2万年前にかけて噴火が継続し、溶岩や火砕流が噴出しました。
- (5) **1979年、91年に水蒸気爆発**がありました。

(山田・小林(1988)などを参考に作成)

### 御嶽山火山形成概念図



### 1979年(昭和54年)水蒸気爆発



午後12時頃の噴煙  
(提供: ㈱中部カラー)



ほぼ一列に並んだ火口列  
(提供: 中日本航空㈱)



北東にたなびく噴煙  
(提供: 荒牧重雄)

- ・10月28日の早朝に噴火活動が始まりました。活動のピークは、同日の午後2時ごろでした。
- ・地獄谷源頭部の王滝頂上付近にならんだ約10個の小火口から噴煙を上げました。
- ・噴火当日の午前7時頃、濁川温泉で大量の火山灰で白濁した水が、流れ下るのが目撃されました。
- ・推定総噴出量は18万トンで、降灰は150km離れた群馬県前橋市でも確認されました。

### 1984年(昭和59年)御岳崩れ

- ・9月14日、長野県西部地震によって御嶽山南側中腹の尾根が大規模に崩壊し、岩屑なだれが発生しました。
- ・崩壊による土砂は、濁沢川を経て王滝川に流れ込み、12km下流の御岳湖まで到達しました。
- ・崩壊土砂量は、3,600万m<sup>3</sup>(東京ドーム29杯分)に達しました。
- ・流路となった地域は、豊かな森林がはぎ取られ、15名の人命が奪われました。



御岳崩れ発生前(1979年) 御岳崩れ発生後(1984年)  
(提供: 新中央航空㈱)

## ■気象庁の発表する火山情報に注意しましょう

気象庁は、火山に異常現象や噴火活動があったとき、直ちに「**火山情報**」を発表して、注意・警戒を呼びかけます。もしも、御嶽山の火山情報が発表されたときは注意しましょう。



### ■緊急火山情報

生命・身体にかかわる火山活動が発生した場合、またはそのおそれがある場合に発表します。

→これが発表されたら、役場や警察の指示に従って、**できるだけ早く避難しましょう。**

### ■臨時火山情報

火山活動に異常が発生し、注意が必要なときに随時発表します。

→これが発表されたら、登山は控え、山の様子や役場からの情報に注意しましょう。状況によっては、避難の準備が必要です。**危険と思ったら、自主的に避難しましょう。**

### ■火山観測情報

緊急火山情報、臨時火山情報を補う場合や、火山活動に変化があった場合などに発表します。

御嶽山の火山情報は、下記の気象台およびホームページから入手できます。

・長野地方気象台 026-232-2034

・防災気象情報サービス <http://www.tenki.jp/>

## ■備えよう、防災用具

日頃から、次のものをリュックサックに入れて準備しましょう(チェックリスト)。

飲料水・食料

ヘルメット・防災頭巾(宿泊施設では、宿泊者分も準備しましょう)

マスク

防寒具

雨具

ラジオ

懐中電灯

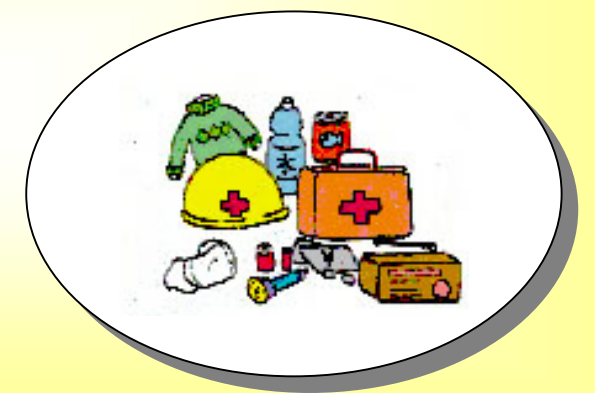
緊急医療品・常備薬

次のものは、すぐに持ち出せるように準備しましょう。

携帯電話

衣類、タオル

お金、貴重品



## ■避難時のお願い

**お年寄りや子供、体の不自由な人を助けましょう。**  
**土地に不慣れな人を助けましょう。**